ドラゴンマガジン
7月号購入特典
ハイスクールD×D
アニメイト限定
4Pリーフレット

「九重のクラスメイト」

俺たちがそれぞれ進級して、それぞれの新たな生活に慣れた、ある日のことだった。

兵藤家のリビングで寛いでいると――、

「今度の放課後、私の学友を旧校舎に連れてきても良いじゃろうか？」

そう、九重が言い出したのだ。

九重は現在駒王学園の初等部に通っている。何でも一部小学生の間で、高等部の旧校舎注目の的になっているというのだ。

基本、俺たち悪魔が通っていることは、一般の生徒には内緒だ。しかし、あの学校って、異能使いの生徒を秘密裏に通わせてもいるんだよな。どうやら、その異能を持つ小学生の間で注目を集めているという。

注目、か。そりゃ、あそこはリアスの根城だし、俺たちも通っているところだからね。超常現象のるつぼといえば、その通りだ。

九重は一般生徒の友達の他に、異能使いの生徒とも仲良くなれているようだった。

九重が友達を旧校舎に連れてきたいということだろう。俺はオカルト研究部の前部長のリアスと、現部長のアーシアに問う。

「どうなの？」

OKか否か。

リアスは笑顔で「問題ないわ」と答え、アーシアもそれを受けて「どうぞ、連れてきてあげてください」と九重に告げる。

九重は満面の笑みを浮かべて、

「ありがとうなのじゃ！」

と言うなり、うれしそうに飛び跳ねた。

後日、九重がオカ研の部室に連れてきた女子小学生は、どこか見覚えのある顔つきだった。

女生徒が言う。

「はじめまして、オカ研の皆さん。私は加茂円保（かもみつほ）といいます」

礼儀正しくあいさつをくれたのは――現生徒会メンバーの加茂忠美さんの妹さんだった。つまり、陰陽師の家系だ。

加茂さんの妹は、瞳を輝かせながら言う。

「ここが、かの有名なグレモリー家のお姫さまが運営しているというオカルト研究部なのですね！」

非常に興味深そうに部室のあちらこちらに視線を配らせていた。礼儀正しくあいさつをくれた割には、そういう無邪気そうなところは小学生だなと思う。

現部長のアーシアが加茂さんの妹さんに言う。

「前部長のリアス・グレモリーお姉さまは、現在大学部に通われているので、普段ここにはいらっしゃりませんが、私たちでよければどんどん質問してくださいね」

アーシアがそう言うと、加茂さんの妹はさっそく手を挙げた。

「はいはい！　魔方陣！　魔方陣が見たいです！」

えらいはしゃぎようで俺たちに次々と質問を投げかけてくるのだった。

どうやら、本物の悪魔とこうやって接するのは初めてらしく、遠目で俺たちのことは見ていたようだが、話しかける切っ掛けがなかったらしい。

そこに転入してきたのが九重だ。加茂さんの妹はすぐに九重の正体を看破し、接触して、仲良くなった。

九重が妖怪だとわかっていても、駒王学園に通う子ならば悪い妖怪ではないだろうと思ったようだ。

……そういうところに異能使いからの駒王学園への信頼度がわかるといいますか。まあ、この一年で色々なことがあって、事件の中心にこの学校があったから、力のある異能力者の間では相当に有名のようだけどね。数ある事件を解決してきた的な意味で。

九重が言う。

「円保殿は、この歳で除霊を何度も成功させているのじゃ」

加茂さんの妹は自信ありげに「幽霊なんて怖くありません！」と胸を張っていた。

加茂家代々に伝わる護符を手にする加茂さんの妹。

「悪霊だけじゃなく、いずれは悪い妖怪、悪魔、吸血鬼を退治してみせます！」

おー、言うなぁ。でも、加茂さんの家って由緒正しいという話だから、将来は有望なのかな。

そのあとは、旧校舎の各部屋を俺と九重で案内した。まあ、見せられる範囲だけだね。

部屋によっては、部員が置きっ放しにしている悪魔のアイテムとかが散乱していたりするが……それすらも加茂さんの妹は楽しげにしていた。

しかし、ある部屋の扉を開けたときのことだ。

扉を開くと——そこには、段ボール箱が四つ置かれていて、隙間から赤く不気味に覗かせる眼光がっ！

それを見た瞬間、加茂さんの妹は——。

「きゃああああああああああっ！」

悲鳴を張り上げて、九重の手をつかみ、そのまま廊下の奥まで逃げてしまった。

……俺が部屋のなかをあらためて見る。

段ボール箱が四つ置かれ、隙間から赤い眼光がギラリと輝く異様な状況だ。

俺はため息をついて、四つの段ボール箱に向かって言った。

「……何をしているんだ、ギャー助、ヴァレリー、エルメンヒルデ、ミラーカさん……」

俺がそう言うと、段ボール箱の蓋をあけて、ギャスパー、ヴァレリー（遊びに来ていた）、エルメンヒルデ、ミラーカさんが姿を現す。全員吸血鬼だった。

ギャスパーが恐る恐る言う。

「……えっと、十日に一度、吸血鬼同士で段ボール箱に入りながら、吸血鬼の今後を語る会を開いてまして……」

段ボール箱に入って、そのような会を!?

ギャー助の影響で段ボールヴァンパイアが急増している！　しかも局地的に！

さすがの陰陽師小学生も、段ボール箱に入る吸血鬼×４は予想外だったようだ。

加茂さんの妹は、その後、ひと月ほど今回の一件がトラウマになり、段ボール箱が怖くて近寄れなかったという。

段ボール箱に入った吸血鬼を退治できるのはまだまだ先のようだ。